



防災リーダー研修の様子（バングラデシュ）  
DRR Leader Training (Bangladesh)

# Newsletter

ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして基金」で、下記SEEDSのロゴをかざすと簡単にご寄付いただけます。

## ● Table of Contents Vol.64(Jun., Jul. 2018)

- ・バングラデシュ : バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業
- ・インド : バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業
- ・ミャンマー : ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業
- ・フィリピン : セブ州における学校の防災管理推進支援事業
- ・日本 : (1) 丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業  
(2) 講師派遣
  
- Bangladesh : Project on Capacity Building for Community-Based Disaster Risk Reduction in Urban Areas of Bangladesh
- India : Project for Participatory Community-Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi
- Myanmar : Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township
- Philippines : Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province
- Japan : (1) Tamba City Revitalizing City Promotion Partnership Project  
(2) Send SEEDS Asia Staff to Lecture



特定非営利活動法人SEEDS Asia

〒658-0072

神戸市東灘区岡本3-11-30-302

3-11-30-302 Okamoto,  
Higashi Nada ku, Kobe, Japan

Tel : 078-766-9412

Fax : 078-766-9413

Email : [rep@seedsasia.org](mailto:rep@seedsasia.org)

Web : [www.seedsasia.org](http://www.seedsasia.org)

Facebook : <https://www.facebook.com/SEEDS-Asia-206338119398923/>



バングラデシュ

## バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業

### 【JICA草の根技術協力事業】

北ダッカ市住民の災害対応能力の向上を目指し、コミュニティにおける防災活動を促進しています。

#### ●防災リーダー研修実施

モデルコミュニティとして選定した5つのコミュニティに加え、新たに3つのコミュニティで活動を始めました。この3つの新しいコミュニティのリーダーを対象に、5月9日と10日に防災リーダー研修を実施しました。講義形式のセッションが多かった昨年の反省を活かし、今回はグループワークやアクティビティを多く取り入れ、楽しみながら防災について議論できる内容にしました。地震が起こったことを想定し、どのような対応をするかロールプレイをしたり、緊急持出し袋に何を入れるか、実際にアイテムをバッグに詰めながら、そのアイテムを選んだ理由を発表したりといったアクティビティは非常に盛り上がりました。参加した女性からは、「こんな大事なことを今まで何も知らなかったことに焦りを感じている。早く動き出さなければ。」と力強いコメントがありました。2日目は、消防署の協力のもと火事の原因や発生時の対処法について学ぶとともに、なによりも未然に防ぐことが重要であることを確認しました。また、いざというときに対応できるよう、消火器や濡れ布による消火の方法やファーストエイドの練習を行いました。人口が増え続けるダッカでは火事の件数も毎年増えており、参加者の関心も高いようでした。



防災リーダー研修の様子

研修にはモデルコミュニティのメンバーもかけつけ、去年の研修のおさらいをするとともに、自分たちの活動、本邦研修の経験、また、活動を始めてからのコミュニティメンバーの意識の変化について話をしてくれました。ダッカでもコミュニティ防災のネットワークが少しずつ広がっています。

#### ●一本の消火器のちから



コミュニティオフィスのスタッフに消火器の使い方を説明するロニーさん

ダッカでは、消火器が備え付けられていない家や建物が非常に多くあり、私たちが活動をするコミュニティも例外ではありません。モデルコミュニティの一つであるモニプリパラコミュニティは、昨年SEEDS Asiaの研修後に自主的に消火器を購入し、オフィスやメンバーの家に設置しました。

5月17日午前2時、モニプリパラコミュニティ内の住宅ビルにてたばこの火に起因する火事が発生。知らせを聞いた防災リーダーの1人、ロニーさんは、とっさにコミュニティオフィスに設置していた消火器を持って現場に駆けつけ、火を消し止めることに成功しました。消防車が到着したのはそれから20分後のことでした。住宅ビルが密集するこのエリアでは、対応が少し遅くなっていたら大惨事になるところでした。ロニーさんは、「SEEDS Asiaの研修を受けるまで消火器の設置など考えもしなかったし、使い方も知らなかった。研修を受けて、どう自分や家族を守るかを学んでおいてよかった。コミュニティの役に立てて嬉しい。」と話していました。火事があったビルの管理人は、今回の火事を機に、各階に消火器を設置するとともに、モニプリパラコミュニティと協力して住民に防災啓発を行うことを決めました。防災活動は成果をはかるのが難しいとよく言われますが、確実に力になっています。

たし、使い方も知らなかった。研修を受けて、どう自分や家族を守るかを学んでおいてよかった。コミュニティの役に立てて嬉しい。」と話していました。火事があったビルの管理人は、今回の火事を機に、各階に消火器を設置するとともに、モニプリパラコミュニティと協力して住民に防災啓発を行うことを決めました。防災活動は成果をはかるのが難しいとよく言われますが、確実に力になっています。

#### ●防災メディアブログ開設に向けて

昨年実施したメディアフェロウシッププログラムに参加した記者たちを中心に、防災メディアブログの開設を進めています。メディアブログは、メディア各社の災害関連記事や記者個人の見解を集めて情報プラットフォームを作ること、また、各方面から防災に取り組む人たちのネットワークづくりを目的としています。都市防災関連ではこうしたプラットフォームは現在バングラデシュにはなく、初めての取組みとなります。ブログ開設に向け、6月30日、メディア関係者とコミュニティを招いて、ブログに掲載する記事の内容や運営方法について話し合うミーティングを開催しました。記者からは、「編集者の判断により、防災について書いた記事は新聞に掲載されなかったり、掲載まで時間がかかることがある。そういった記事を載せるのによい場となる」といった声や、「自由に発言できる場ではあるが、掲載する内容には慎重にならなければならない」といった声があがりました。一方コミュニティからは、過去に自分たちの活動がテレビニュースに取り上げられ反響を受けた経験から、いかにメディアが住民レベルの防災活動推進に貢献できるかについて話がありました。ブログは近々開設予定です。お楽しみに！

# バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業

## 【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】

教材開発や防災活動の拠点づくりなどの取り組みを通じて、市民の防災意識の向上を目指します。

インド

SEEDS Asiaはインドのバラナシ市において、防災教育／気候変動教育の拠点となる「クライメイトスクール（CS）」の5校と、CSが位置する5地区に地域防災協議会を設置し、コミュニティ防災組織のモデルづくりを進めてきました。今年度はバラナシ市内全域で防災の推進活動を進めており、2018年5月～6月は下記の活動を行いました。

### ●バラナシ市民向け防災トレーニング パート1（6月8日～10日）

バラナシ市のロータリークラブとバラナシクラブのメンバー 約50人を対象に、インド国家災害対応部隊（通称NDRF）と協働で三日間の防災訓練を実施しました。これまでもロータリークラブとバラナシクラブはバラナシ市内で災害が発生した際に緊急支援などを展開していましたが、今後は災害後のよりスムーズ且つ被災者のニーズに即した対応と共に、災害が発生する以前から防災を推進できるよう防災研修を実施しました。



応急処置の実技講習

SEEDS Asiaからは、防災の基本概念、気象、大気汚染、水と衛生、被災者支援に関する講義の他、京都のロータリークラブの防災活動紹介を行い、また、NDRFからは、応急処置の実技講習と、溺れた人の救助デモと実践をプールにて実施しました。参加者からは、「このトレーニングを通して気候や災害について学べたのは良かった。何よりも自分の市について学ぶ事が出来て良かった」「今後自分たちで色々防災を広げていきたい」など、嬉しい感想をもらいました。

この防災トレーニングは多くの地元メディアにより報道され、研修の様子を市民に広く知ってもらう良い機会となりました。さらに、研修後にはタスクフォースが結成され、学校や地域、ラジオを通じて幅広く防災の啓発活動に取り組んでいます。

### ●バラナシ市民向け防災トレーニング パート2（6月12日～13日）



ハザードマップ作成

6月12日、13日には、バラナシ市のガンジス河沿いに位置し洪水の常襲地となっている村落の住民24人を対象に、NDRFと協働で二日間の防災トレーニングを実施しました。同トレーニングでは自助と共助、すなわち自分たちの村落に災害があった時に自分たちでどう対応できるかという実践的な研修をメインに実施しました。

SEEDS Asiaからは、防災の基本概念、水と衛生の講義に加え、ハザードマップ作成のワークショップを実施し、村の脆弱な場所や助けが必要な人、避難できる場所を話し合い備えておくこと、日頃から災害の備えが重要であることを強調し、NDRFからは心肺蘇生法やケガの対処などの応急処置の実践、筏や救命道具の作成、蛇にかまれた時の対策など、災害時に役立つ技術等、実践的な研修を実施しました。参加者からは「洪水発生時にどのように避難すれば良いか学ぶ事ができた」、「人命救助の方法とその重要性を学ぶ事ができて良かった」、と感想を述べていました。

### ●防災教育教材制作中！

現在、スマホで防災について学ぶことのできる防災アプリを作成中です。バラナシだけではなくインド国内の他都市の人々にも興味を持ってもらえるようなコンテンツで、楽しみながら防災について学ぶ工夫をしています。アプリ作成には石巻で東日本大震災後にITを通じた社会イノベーション活動をしている業者に協力を頂いており、今年9月に完成の予定です。また、バラナシの歴史や災害に関するドキュメンタリービデオの他、2019年度版防災カレンダーも鋭意作成中です。



防災ドキュメンタリービデオの打合せ



ミャンマー

## ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業

### 【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進

事業対象地のエヤワディ地域ヒンタダ地区ナベーゴン村では、工事現場の安全性に配慮しながら、シェルター機能を備えた学校の建築を進めており、本格的な雨季を前に躯体工事が完了しました。同時に、学校や地域住民の災害対応能力の強化のため継続的な研修・協議会も定期的に行っています。以下、5月～6月の活動を報告いたします。



躯体工事が完了した学校

### ●第2回ワークショップ ～身の回りの災害リスクの認識～



まちあるきによるハザードマップ作成

洪水の常襲地であるナベーゴン村の住民は、毎年、大雨とそれによって起きる水害を経験しています。一方で、そのような状況が“日常”となっているため、改めて、水害の原因やどのような被害が発生しているのかをまずは共有することにしました。そこで、5月27日に、第二回防災ワークショップを開催し、①HVCA (Hazard Vulnerability Capacity Assessment) ②月ごとの災害カレンダー作成 ③村の災害の歴史記録 ④まちあるきによるハザードマップ作成、の4つのアクティビティを実施し、36名が参加しました。災害の歴史記録のアクティビティでは、高齢者や地元政府関係者から、1974年のチュエダゴン堤防決壊まで遡ってヒアリングを行うなど、ナベーゴン村の地理的、歴史的な災害の脆弱性の背景を知る重要な作業となりました。

ワークショップ後の効果を計る質問票では、参加者36人中35人が、まちあるきによるハザードマップ作成が最も役に立つアクティビティであったと回答し、参加者が自分の村について理解を深めたり、改めて知ることができた喜びが広く共有されていたことが確認できました。新しく結成された、村内防災委員のメンバーでもあるティン・コー・コー氏は、ハザードマップの作成が最も防災の活動に有意義だと感じた理由として、「“防災”という意識を持ちながら、自分の村を歩くことで、改めて地形や人々が住んでいる環境を認識することができました。これまで一人ずつが、何となく知っていたことや考えていたことを、今回、地図という形で共有できたことは、大変意味があると思う」と語っていました。

### ●第3回ワークショップ ～気象の理解と参加型防災の意義の共有～

続いて、6月17日に行われた第三回目の防災ワークショップは、気象とその影響について学びました。特に、雨と洪水の関係について、2015-2016年の大洪水をケーススタディとして知識を深めました。SEEDS Asiaのスタッフからは、気象や雨の基本的な知識に加えて、ナベーゴン村に隣接するエーヤワディー河の危険水位や観測場所、過去の洪水時の雨量や気象注意報・警報について情報提供を行いました。そのうえで、参加者30人は、それらが2015-2016年の大洪水で、どのように被害が広がり、復旧が進められたかについて話し合いました。特に大きな河川が3つも流れるミャンマーでは、北部の上流部で洪水が発生すると、近いうちにナベーゴン村に位置する下流部でも洪水が起きる可能性が高いため、自分の地域だけでなく北部の気象情報についても知る重要性が、共有されました。



気象とその影響について学ぶ

さらに、これまでのワークショップに続き、参加型の地域防災計画を進めるべく、災害における自助・共助・公助についてブレインストーミングから、分析をおこないました。2015年の大洪水の際、政府からの救援が村にきたのは、約5日後であったことも振り返り、災害時の喫緊のニーズは、自助・共助が不可欠であるという結論に至りました。



フィリピン

## セブ州における学校の防災管理推進支援事業

### 【JICA草の根技術協力事業】

学校における災害リスク管理力の向上を目指した取り組みを実践しています。

#### ●教員研修

4月29日から5月4日にかけて、セブ州にて学校防災管理指導チームとともに教員研修を行いました。10校のパイロット校から各12名、計120名の教員が、災害に負けない学校運営を目指し、研修に参加しました。同研修では、これから各パイロット校がそれぞれの状況に合わせて作成するマニュアルの運営指針を導入すると同時に、教員自身の防災管理能力の強化も目的としています。教育省本省防災管理局、セブ州・ラプラプ市・トレド市防災管理局、社会福祉開発省、保健省などの政府系機関からも外部スピーカーを招待し、レクチャーをしていただきました。教育省第7地方事務所長ジュリエット・ヒルタ氏からは、学校防災管理チームがどのように命を救うことができるかについてメッセージをいただきました。参加者からは、研修で学び仕事に活かせることとして、「常に準備が必要なが分かった。備えと減災についての新たな知識を得ることができた。」、「教員として、命を救うために、児童生徒、コミュニティや家族に防災教育を行うことの大切さを再認識できた。」などの感想をいただきました。



教員研修集合写真

#### ●カルカル市との了解覚書調印、ボゴ市長への表敬訪問

6月8日、カルカル市長 ニセプロ・アブラ氏との了解覚書調印を行いました。教育省カルカル市地区事務所長に新しく任命されたセネン・ポーリン氏や同市防災管理局職員も立ち合いました。この調印式の実現に向けて、パイロット校であるカルカル中央小学校長や、学校防災管理指導チームメンバーから多大なる協力をいただきました。調印後、SEEDS Asiaのフィリピン版ニュースレター第3号をお渡しし、カルカル市で実践している本プロジェクトについて理解を深めていただきました。

また6月18日に、ボゴ市長 カルロ・ホセ・マルティネス氏と会議を行い、事業概要とパートナーシップの強化を目的とした了解覚書について説明しました。新しく任命された教育省ボゴ市地区事務所長、学校防災管理指導チームメンバー、パイロット校がある地区のコミュニティ議員、パイロット校副校長、ボゴ市防災管理局、建築局職員が参加しました。市長は、本事業が市の防災管理計画と連携でき、改善できるいい機会だと捉え、次の市議会での了解覚書の承認を行うことに同意して下さいました。会議の参加者全員からは本事業の実施のみならず、継続していくことの重要性についても賛同いただきました。



カルカル市との了解覚書調印



ボゴ市長への表敬訪問



日本

## 丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業 【丹波市】

復興スタディツアーを通じ、豪雨災害からの教訓を伝え、丹波市の新たな“好流”を促進します。

### ●新潟県長岡市への視察

丹波市で実施するスタディツアーでは、防災の大切さや復興の状況を外部の人々に発信するにあたって、その中に内在する温かい“人の魅力”を伝えていこうとしています。そのためにはどのような運営体制と提供内容にするべきかを考えるために、6月4日から5日にかけて、新潟県長岡市へ視察に行きました。視察には、丹波市シティプロモーション推進室と復興推進室、住民代表者、SEEDS Asiaが参加しました。

6月4日は旧山古志村の木籠（こごも）集落を訪問しました。この集落には、本来の住民だけでなく外部からもファンがよく足を運び、訪問者を温かく受け入れています。「最初から今のような態勢を目指していたわけではなく、『やりたいことをやる、やれることはおのずとわかる』をモットーに進んでいたら、たくさんの活動が生まれ多くの人との交流が進み、継続してきました」と話す住民の方の発言が印象的でした。

6月5日は木沢集落とその周辺を訪問し、廃校舎を活用した宿泊施設や、インターンシップ、集落の運動会など、外部からの訪問者を受け入れる様々な仕掛けについて学びました。地元の方が「最初は外から来た若者との交流に戸惑ったけど、彼らが出す面白いアイデアに乗っかっていたらどんどん地域が元気になった。今では集落の運動会のために全国、さらに他の国からも遊びに来てくれる人がいる」とおっしゃる通り、高齢化が進み人口が減りつつある中山間地域において、外部からの若者を受け入れ、交流によって村の存続が実現している様子は、丹波市の目指す姿でもあります。また、震源地の地表「震央」への道が整備されており、震災を語り継ぐ努力が顕著に見られました。



「震央」で地元の方のお話を聞く丹波市職員と住民

どちらの集落でも「スタディツアー」という形ではなくとも積極的に外部からの訪問者を受け入れ、“人の魅力”を大いに活かした交流を続けています。災害種や規模など、2014年の豪雨災害とは異なる点が多い一方で、長岡市の各集落が実施している取組みからも多くのことを学びました。

### 丹波市スタディツアー参加者募集中！！

本事業では9月から、学生を対象にした丹波市スタディツアー参加者を募集しています。テーマは復興、防災、まちづくり。これらの分野に関心がある方々を丹波市へお迎えし、市島町の魅力的な方々との交流をお手伝いします。

例えば・・・

#### 森林管理に取り組んでいる自治会の会長♪

2014年の豪雨災害が起こる前から「里を囲む人工林をそのまま放置していたら、人々の暮らしに影響が出る」ということに気付き、楽しい森づくりをモットーに活動してきました。また、南海トラフ巨大地震の発生を見据え、発災後の復興を事前に考える「事前復興」の重要性を周囲に説いている先進的な防災の実施者でもあります。おだやかな語り口の一方、目の醒めるような発言で気付きをいただけます！



#### 食べ物を通じて「人づくり」をしている地元グループ♪

2014年の豪雨災害に、外部からのボランティア団体と協力して新しい炊き出しスタイルを生み出したパワフルなグループです。炊き出しを通じ食の大切さを強く実感し、以来、地元で採れた食材を、新旧の調理法を取り入れて振舞う活動をしています。ぜひ、ご賞味ください。災害時の大変だったエピソードを、チャームングに語っていただけるのも必見です。



丹波市スタディツアーのちらしは次のページをご覧ください。

# 丹波市スタディツアーちらし



兵庫県丹波市は、市界町を中心に2014年8月に豪雨に見舞われました。1時間で100mm、24時間で400mmを超える豪雨は250箇所以上の林地崩壊をもたらした。流出した土砂や落木が住宅や農業施設を破壊しました。それでも最低限の人的被害で済んだ特異には、自分が住む地域を守りたいという自衛や共助の考えから、地域住民が自発的に防災対応行動を取ったことが挙げられます。その思い、災害から4年が経ちつつある現在、消えることかますます強くなっています。そんな丹波市に足を運び、熱い思いを持った住民と交流する“スタディツアー”への参加者を募集します。



<input checked="" type="checkbox"/> 災害直後の様子や講演、訪問形式で学ぶ	<input checked="" type="checkbox"/> 日程が2泊3日、日程のオプション可	<input checked="" type="checkbox"/> 研修主体の森林管理で、災害の影響を少なくする取り組みを体験	<input checked="" type="checkbox"/> 食で復興を先取りする！地域の食を外部に発信する取組も体験
--	---	---	--

モデルプラン	day 1	day 2	
9:00	丹波市市界町(市界町) 午後2時から丹波市界町での講演を受けられます。	9:00	豊前川で土砂崩壊被害を受けた農家の農産物や、農具、住宅、市界町、災害の復旧策についてお話を聞きます。
12:00	引寄せや集積に悩んだことがある方、手分けした土砂崩壊に備える取組を体験します。	12:00	地元産の食材を地元産の食材を味わいます。
15:00	市界町の進行現場を視察、防災がどのように進められているのか？	15:00	山に入って、植物の根と地形がどう関係しているのかを学びます。多摩川が崩壊した時に、なぜ崩壊が起きたのかを学ぶチャンスを持つチャンスがあります。
17:00		17:00	

※メニューは変更されます。ご希望に応じて内容調整可

**料金例**

- 5名で参加の場合：12,000円/名(コース料、移動費、保険料)
- 5名〜10名で参加の場合：1人あたり1名で参加の場合より安くなります。
- ※料金は参加人数や行動によって変わります。移動手段や宿泊先などもご確認ください。

**柔軟に提案します！まずはお問合せください！**

移動手段の詳しい内容や参加費の詳しい内容などはお問い合わせください。TEL: 079-768-9412 FAX: 079-765-9413 EMAIL: lambdastudytour@gmail.com ※丹波市界町市界町(市界町)に本社があります。

下記のURLより拡大してご覧いただけます。

[www.seedsasia.org/JP/wp-content/uploads/2018/07/丹波市スタディツアーちらし.pdf](http://www.seedsasia.org/JP/wp-content/uploads/2018/07/丹波市スタディツアーちらし.pdf)

## 講師派遣

SEEDS Asiaでは、全国の学校や地方自治体、企業などの民間組織・団体の講演会やイベント等、幅広い方々を対象に、講師を派遣しています。2018年5月〜6月には以下の講師派遣を実施しました。

### ●「防災・減災」「復興まちづくり」セミナーにおける講師

6月3日、SEEDS Asiaのスタッフが神戸市商工貿易センター会議室にて「NGOによる地域密着型の被災地支援 一第三者として復興に関わること ミャンマーの事例を中心に」を演題に講演を行いました。同講演は、公益財団法人国際交通安全学会がASEANメンバー国からの若手を対象に毎年実施しているリーダー育成プログラムの一環で、招聘された約20名の政府関係者/起業家が出席しました。内容はミャンマーのサイクロン・ナルギスからの復興と防災にSEEDS Asiaがどのように関わってきたかを紹介するもので、地理的、政治的、文化的な課題にどのように対峙してきたかについても共有しました。ASEANの国々の多くは、津波や台風(サイクロン)など、それぞれの災害を経験しており、講義後は活発な意見交換が行われました。



講演の様子

### ●神戸学院大学での講義

6月4日、神戸学院大学現代社会学部社会貢献論II/社会防災特別講義IVにて「アジアで防災のリアル—NGO/NPO職員としてアジアの防災に関わるということ—」をタイトルに講義を担当しました。出席している学生は社会防災学科の3年生で、就職活動なども視野に入れている段階であることから、「将来のキャリアプランの一つとしてNGO職員という生き方も素敵だなと思った」というコメントや、「NPOやNGOはボランティアだと思っていたが、寄付や助成金を資金として求められる成果を生み出し、その説明責任が求められるプロ集団であることが分かった」などのコメントがみられました。SEEDS Asiaの活動や、活動している国の事情、NPOやNGOでの活動について、理解を深める一助となれば嬉しいです。



Bangladesh

## Project on Capacity Building for Community-Based Disaster Risk Reduction in Urban Areas of Bangladesh 【JICA Grassroots Technical Cooperation Project】

### ● DRR Leader Training

In addition to the five model communities, SEEDS Asia started working with three new communities. One of them has been very keen to work on DRR, looking at how a neighbor model community is making changes in their area.

DRR leader training was held for leaders from the new communities on 9th and 10th May. More group work and activities such as roleplaying and emergency bag making were given in the training this year and the participants enjoyed a lot while learning about community DRR. On the day 2, participants discussed the causes of and response to fire with a help of Fire Service and Civil Defence. It was emphasized that prevention is most important for fire and each individual and household need to be aware. The participant then practiced first aid and how to put out fire using wet clothes and fire extinguisher. They seemed quite interested in fire disaster as the number of incidents has been increasing in Dhaka with its ever growing population. After the two-day training, one of the participants said "I didn't know such important things like DRR till today. I'm urged to work on in now!".

Model community members also joined the training to share their work, Japan visit experience, and how their community has changed through DRR activities. DRR community network is gradually developing in Dhaka.



DRR Leader Training

### ● Power of a Fire Extinguisher



Mr. Rony explaining how to use fire extinguisher to society office staff

It's not uncommon in Dhaka that no fire extinguisher is kept at home or in a building and it's the same in communities we work with. Monipuripara society, one of our model communities, purchased fire extinguishers for their society office and members' houses after trainings by SEEDS Asia last year.

17th May at 2am, fire broke out in a residential building in the community area. Mr. Rony, a DRR leader who attended SEEDS Asia's DRR leader training, got the news and rushed to the site with a fire extinguisher which was set up at their society office. He then successfully put out the fire and save the residents from further injury. It was after 20 minutes when a fire service reached the site. Were it not for Mr. Rony's quick response, it could have been a serious disaster in the congested residence area. "I did not even know how to use fire extinguisher till I took part in SEEDS Asia's training. I'm happy that I'm now capable to help my community" said Mr. Rony. From this experience, the building owner decided to place fire extinguishers at every floor and work on DRR awareness with the Monipuripara society. As it's often said, it is difficult to measure a result of community DRR but it's certainly benefiting communities.

### ● DRR Media Blog

With the journalists who participated in our DRR media fellowship program last year, SEEDS Asia is developing a DRR media blog. The purpose of the blog is to pool articles and opinions related to DRR as an information platform, and also to make a DRR network of people who work on the issue in their respective fields. There is no such blog platform for urban DRR in Bangladesh at the moment and this is the first initiative. Prior to the launch, on June 30, SEEDS Asia organized a meeting to discuss the blog contents and management strategy with journalists and communities. One journalists said "It sometimes happens that article does not get published as per editor's decision or it takes long time to go on the paper. This kind of platform will help us publish such stories" while another said "as it's an open platform we should be careful about the contents of article". Community member shared his experience that their activity was covered by a news channel, which had a positive impact to his own as well as other communities around and how media can encourage DRR at a community level. The DRR media blog will be launched soon. Stay tuned!





India

## Project for Participatory Community–Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi

【Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA)】

### ●DRR Training for Varanasi Citizen 1 (8th – 10th June)

SEEDS Asia and (National Disaster Response Force) 11th battalions jointly organized a three days training program for Benares Club and Rotary Club from 8th to 10th June, 2018.

Around 25 members from Rotary Club and 25 members from Benares Club participated in the training. The training was conducted with the expectation that members of those clubs would be great promoters for community based DRR activities in Varanasi in the future.

SEEDS Asia gave a presentation about basic concept of DRR, weather, air pollution, WASH, disaster relief and DRR activities of Kyoto Rotary club. Participants were given hands-on training of first-aid and drowning rescue demonstration by NDRF. After the training, we got very positive feedback from participants, such as: “I learned many things about weather and disasters, and most important, I learned about my city.”, “I would like to share DRR in various ways.” Local mass media made a lot of coverage of this training and it provided the opportunity for local citizen to learn about DRR and NDRF’s efforts widely. A trainer of NDRF said, “The both NDRF and SEEDS Asia took best advantage of each strength in the training” as a feedback.



First-aid training

### ●DRR Training for Varanasi Citizen 2 (12th – 13th June)



Highlighting vulnerable area

SEEDS Asia conducted two-days DRR training with NDRF for the village situated in the flood prone area along the Ganges River. 24 citizens from the village participated in this training. While the training for Rotary Club and Benares Club was to develop their capacity as a leader of DRR, this training was more practical that people learned self-help and mutual help to response and also to prepare for future possible disasters.

SEEDS Asia gave a presentation on basic concept of DRR, WASH and conducted Town-Watching training. Participants highlighted areas where are vulnerable to a flood and safe places to evacuate.

NDRF gave hands-on training of first-aid. Participants learned and practiced various first-aid skills. Also, they showed the video of flood rescue, and demonstrated how to make floating devices with daily items like plastic bottles. After the training, we got very positive feedback from participants such as: “I learned how to save ourselves from floods and disasters.”, “I learned life-saving and how important it is.”

### ●Working on DRR Education Material

SEEDS Asia is developing variety of DRR education materials this year. DRR App is one of them. An app to learn DRR has been developed for the people all over India not only in Varanasi with a company which is working on social innovation activity through IT after they were affected by the Great East Japan Earthquake in Ishinomaki city, Miyagi, Japan. SEEDS Asia will visit Varanasi with an expert to have the people to test the trial model and get feedback from them in July. The completed version will be released in September. A documentary video of Varanasi city and disaster, DRR calendar of 2019 are under development as well.



Developing DRR documentary



Myanmar

## Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township

【Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA)】

We are delighted to share with you our progress for May and June on our project in Nabekone Village, Hinthada Township, in the Ayeyarwaddy Region. The main framework construction of the school cum shelter was successfully completed before the start of the monsoon season, with great care to safety standards for both the building and the working environment. Our workshops and training sessions for disaster risk reduction and community resilience have progressed with the hard work and enthusiasm of the village members. Please read below to learn more!



Completed the main framework construction of the school cum shelter

### ●2nd DRR Training Workshop : Understanding Disaster Risk in Your Environment



the Hazard Mapping through Town-watching activity

Nabekone Village, in Hinthada Township is hit with heavy rain and flooding every year, and such disasters have become a “normal” part of their livelihoods. Therefore, SEEDS Asia conducted the second DRR workshop with the theme of understanding disaster risk in your environment on 27th May. The 36 participants participated in 4 activities; HVCA (Hazard Vulnerability Capacity Assessment), Seasonal/monthly Disaster Calendar, Disaster History Recording, and Hazard Mapping through Townwatching. For example, for the Disaster History Recording Activity, participants not only discussed amongst themselves but talked to elders as well as local governments to highlight events going back to the 1974 Kywe Da Kone dike collapse.

In the post-workshop survey, 35 out of 36 participants commented that the Hazard Mapping through Town-watching activity was most helpful, as it helped them understand the environment of their village. Tin Ko Ko, a member of the newly formed Village Disaster Management Committee, emphasized that “walking and observing my village with the perspective of disaster vulnerability made me see the geography and environment of Nabekone like I had never seen before; it was a great opportunity for people to share ideas and lessons they had learned individually with the whole community.”

### ●3rd DRR Training Workshop: Learning about the Impact of Weather and Community Participatory Disaster Management

Following the May workshop, the third DRR workshop was conducted on 17th June with the theme of learning about the impact of weather, especially the effect of rain to flooding through a case study of the 2015-2016 floods which devastated Nabekone Village. SEEDS Asia staff shared the basic mechanisms of rain and flooding, as well as the danger water levels of the Ayeyarwaddy River, adjacent to the village. Data on rainfall and early warnings during the 2015 floods was also shared, and participants discussed how the numbers reflected their own experiences of rainfall severity. Moreover, we built on lessons from the last training to start the process for community participatory disaster management by brainstorming self-help, mutual-help, and public-help for disasters in the community. Participants identified the significance of self-help and mutual-help, especially after reflecting on their experience in the 2015 floods, when government public help arrived around five days after the initial event.



Learning about the impact of weather



Philippines

## Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province

【 JICA Grassroots Technical Cooperation Project 】

### ●Pilot Schools Teachers’ Training

SEEDS Asia with the SDRRM-IT (School Disaster Risk Reduction and Management Instructing Team) conducted 5 and half days training for teachers of selected 10 Pilot schools in Cebu Province from 29th April to 4th May, 2018. 12 teachers from each Pilot school: 120 teachers in total participated to gain knowledge to achieve the goal of making the schools of Cebu Province resilient. The training is an introduction to operations guideline which serves as their guide in creating tailor-fitted manuals for their respective schools so as to enhance their capacity on Disaster Risk Reduction and Management. SEEDS Asia invited outside guest speakers from different government agencies, such as DRRMS (Disaster Risk Reduction and Management Service) from DepEd (Department of Education) National, DRRM (Disaster Risk Reduction and Management) Offices of Cebu Province, Lapu-Lapu City and Toledo City, Department of Social Welfare and Development, Department of Health, among others. They gave inputs and shared knowledge with participants. Regional Director of DepEd Region 7, Dr. Juliet Jeruta gave an inspirational message on how participants can save lives for being part of the School DRRM Team. Participants described what they have learned during the training and how it will help them with their work as follows: “Always be ready. Awareness of preparedness and mitigation on what to do during disaster.”, “How important for me as a teacher to educate students, community and family about disaster management to save lives.”



Pilot schools Teachers’ Training

### ●Memorandum of Understanding Signing with Carcar City, Courtesy Call to Mayor of Bogó City

On 8th June, 2018, SEEDS Asia travelled to Carcar City, Cebu Province for the signing of the MoU (Memorandum of Understanding) with the Mayor of Carcar City, Hon. Nicepuro L. Apura. This event was witnessed by Dr. Senen P. Paulin, the newly transferred SDS (School Division Superintendent) to DepEd Carcar City Division and Mr. Kim Lauron, Carcar City DRRM Office. The signing may not have been completed without the support of those who also attended, such as Ms. Farrah Boltron, the School Head of Pilot School, Carcar Central Elementary School, and Mr. Randy Watin, an SDRRM-IT member. SEEDS Asia has also given the Mayor a copy of SEEDS Asia’s Philippines local newsletter volume 3 where he appreciated to see his City’s involvement to the project.

On 18th June, 2018, SEEDS Asia met the Mayor of Bogó City, Hon. Carlo Jose Martinez to introduce the project and discuss the MoU in order to legalize the partnership between the Bogó City and SEEDS Asia. Other invited attendees were Dr. Rosalie Pasaol, the newly transferred SDS of DepEd Danao City Division, Ms. Manilyn Jeah Andales, a SDRRM-IT member, the Community Council of where a Pilot School is located, the Assistant School Head of the Pilot School, DRRM officer of Bogó City and Office of the Building official. Mayor Martinez saw this project as a good opportunity to be part of improvement while aligning the project initiatives to their DRRM plan. Moreover, the Mayor agreed to the MOU and will endorse it to the next council meeting for approval. All of the attendees wanted this project to be realized as well as to have sustainability.



Memorandum of Understanding Signing with Carcar City



Courtesy Call to Mayor of Bogó City



Japan

## Tamba City Revitalizing City Promotion Partnership Project 【Tamba City, Hyogo】

### ●Field Visit to Nagaoka, Niigata

The Study Tour Project with Tamba City Government aims at sharing the attractiveness of the residents through passing down the importance of DRR and the disaster recovery situation of the City to visitors from outside. To take into consideration of how that goal is realized in terms of operation mechanism and contents to provide, a field visit took place from 4th to 5th June in Nagaoka City, Niigata Prefecture which was severely affected by the Chuetsu Earthquake in 2004. The attendees of the visit were: members of Tamba City Government City Promotion Office, Recovery Promotion Office, City residents and SEEDS Asia.

On 4th June, the delegates visited Kogomo community which used to be part of the former Yamakoshi Village. The hosts were not only the community residents but also “fans” of the community from outside the village. One comment by a resident impressed the delegates: “We just sought what we wanted to do, and came to know what we were capable of doing. As we kept moving on, there arose various activities and encounters with different people.”

On 5th June, the host was Kizawa community which utilizes a closed school as an accommodation facility, welcomes interns, and hosts a sports event. These initiatives are all mechanisms to invite visitors from outside. A local resident said: “We were not up for interactions with youth from outside at first, but came to realize that being part of their interesting ideas actually vitalizes the community. Now we have lots of visitors from all over Japan, or even overseas, just to join our sports events.” This comment proves that hosting young people from outside to such a mountainous countryside with aging and decreasing populations surely sustains those communities’ existences: this is what Tamba City is trying to realize through its city promotion. Another interesting aspect of the community was that efforts have been made to pass down the disaster by, for example, reinforcing a path to the Earthquake’s epicenter.

Both communities actively host visitors from outside, though not in a form of a “study tour”, and continue exchanges with them, making full use of their “attractiveness”. Despite there are many differences between their context and Tamba’s 2014 disaster, the community initiatives found in Nagaoka surely gave lots of learnings to the delegates.

### Participants in Study Tour Wanted !!

In this project, SEEDS Asia would like to accept university students who want to participate in Tamba City Study Tour, anytime (to be arranged) from September 2018 to February 2019. The themes of the tour are related to disaster recovery, DRR and community development. Students who are interested in those fields are all welcomed to Tamba City, where SEEDS Asia supports you all to meet the kindhearted and interesting people in Ichijima cho.

#### -People to meet in Ichijima cho-

##### The president of a community association working on forest management☆

Even before the torrential rain affected Tamba City in 2014, he had realized that people’s lives would be exposed to risk if they would continue to leave the man-made forests surrounding the land of Tamba, and started to work on forestry with fun.

He is also a pioneer in terms of telling others the importance of “pre-disaster recovery” to think beforehand the disaster recovery of possible future disasters, taking into consideration of the Nankai Trough Megathrust Earthquake. His way of talking is very gentle, yet surely raises our awareness with powerful messages.

##### A local group working on “people development” with the act of eating☆

When the torrential rain hit Ichijima cho in 2014, this powerful group created a new style of providing hot meals for neighbors in cooperation with other volunteer bodies from outside. They continue to provide local food with old and new cooking methods, since they have realized the importance of food when they provided it during the disaster. Their meals are authentic and valuable! They can also tell you episodes of their tough experiences of the times of the disaster with great humor.



Storytelling by the landowner of the “epicenter”



## Send SEEDS Asia Staff to Lecture

SEEDS Asia sends our staff to schools, local government and private sectors to deliver lectures and conduct events with covering a variety of audience. The following lectures were implemented in May and June, 2018.

### ●Lecture at the Seminar of “Disaster Risk Reduction” and “Recovery after a Disaster” for Young Leaders from ASEAN

On 3rd June, one of the SEEDS Asia staff gave a lecture themed on “Community based support for affected area by NGO – Play a part in revitalization as a third party with cases in Myanmar” at Kobe Commerce, Industry and Trade Centre Building.

This lecture is one of the yearly leadership training programme for youth from ASEAN membered countries implemented by IATSS (International Association of Traffic and Safety Sciences), and 20 government officials/entrepreneurs were attended in the lecture. It was introduced as a case study to share the experiences how SEEDS Asia is playing a part in recovery process after the cyclone Nargis in Myanmar and promoting DRR at various levels and approaches in the country. SEEDS Asia also shared the encountered challenges how to deal with geographical, economic, political and cultural differences. Productive discussions were continued after the lecture since a lot of ASEAN countries faced disasters such as earthquakes, tsunamis and typhoons/cyclones.



Lecture for young leaders from ASEAN

### ●A Lecture at Kobe Gakuin University

On 4th June, SEEDS Asia gave a lecture themed on “The reality of DRR – Play a part in DRR of Asia as a NGO/NPO staff” at Kobe Gakuin University, The Faculty of Contemporary Social Studies, social contribution II/social DRR special lecture IV. The attendances were 3rd year undergraduates and they faced their future career after they graduated at the moment. “Working as a NGO staff might be good for my career after the graduation”, “I thought NPO and NGO were just volunteer groups but I learned they were professionals who generate the best outcomes and achieve accountability since they perform with donation and grant” said students. It is pleasure to encourage the further understanding of the circumstances of counties where SEEDS Asia is working with and the activities of NPO/NGO.